

あらかわ 区議会だより

No.208

平成 23 年 1 月 16 日発行

編集・発行／荒川区議会 ホームページアドレス <http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kugikai/>
〒116-8501 東京都荒川区荒川 2-2-3 電話 03-3802-3111(代表)

新年号
平成 22 年第 4 回定例会号

迎春 新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。
区民の皆様には、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、基本構想で目標に掲げる「幸福実感都市 あらかわ」の実現に向け、区政の各分野で着実に施策の展開を図り、成果をあげることができました。次代を担う子供たちの健康と教育の分野では、おたふくかぜ・水ぼうそうの予防接種費用に対する助成を新たに実施したほか、南千住地区の人口増加に対応するため建設を進めていた汐入東小学校が半世紀ぶりの新設校として開校しました。街づくりの分野では、再開発によって大きく変貌を遂げた日暮里と成田空港を36分で結ぶ成田スカイアクセスが開通し、都心側の玄関口として日暮里が注目され、ますます賑わっていくことが期待されています。こうした街づくりの進展と人口の増加は、長年にわたった衰退傾向から脱して発展する本区を象徴するものです。

さらに、これからの地域社会を担う人材の育成を目的としたコミュニティカレッジが開校し、地域に脈々と息づく隣人を思いやる温かい心を基盤に、区民の皆様が力を合わせて街づくりを推進していくことが期待されています。

一方、昨年半ばからの円高と株安の同時進行により、我が国の景気は減速傾向を強め、地域産業はその影響を受けて厳しい状況が続いています。本年は、地域産業の元気を取り戻し、区民の皆様の暮らしを守ることが重要な課題であると考えています。

新たな年を迎え、区議会といたしましては、引き続き執行機関と連携するとともに、積極的な政策提言を通じ、区民の皆様を十分に反映させた的確な施策の展開を図ってまいります。

結びに、区民の皆様にとって本年が幸多い年となるようお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。



議長 守屋 誠



副議長 戸田光昭

議案の審議結果

平成 22 年第 4 回定例会

○ 賛成 × 反対 - 退席

太字は討論のあったことを示す

議案番号・議案名	会派名・結果 (数字は会派人員)					結果
	自由民主党荒川区議会議員団	公明党荒川区議会議員団	日本共産党荒川区議会議員団	民主党・市民の会	あらかわ元気クラブ	
議員提出議案 (7件)						
第 18 号	○	○	○	○	○	可決
第 19 号	○	○	○	○	○	可決
第 20 号	○	○	×	○	○	可決
第 21 号	○	○	○	○	○	可決
第 22 号	○	○	○	○	○	可決
第 23 号	○	○	○	○	○	可決
第 24 号	○	○	○	○	○	可決
区長提出議案 (21件)						
第 63 号	○	○	○	○	○	可決
第 64 号	○	○	×	○	○	可決
第 65 号	○	○	○	○	○	可決
第 66 号	○	○	○	○	○	可決
第 67 号	○	○	○	○	○	可決
第 68 号	○	○	○	○	○	可決
第 69 号	○	○	○	○	○	可決
第 70 号	○	○	○	○	×	可決
第 71 号	○	○	○	○	○	可決
第 72 号	○	○	○	○	○	可決
第 73 号	○	○	○	○	○	可決
第 74 号	○	○	○	○	○	可決
第 75 号	○	○	○	○	○	可決
第 76 号	○	○	○	○	○	可決
第 77 号	○	○	○	○	○	適当との意見
第 78 号	○	○	○	○	○	適当との意見
第 79 号	○	○	○	○	×	可決
第 80 号	○	○	○	○	×	可決
第 81 号	○	○	○	○	×	可決
第 82 号	○	○	○	○	×	可決
第 83 号	○	○	○	○	×	可決

4 面

新春を迎えて
— 各会派新年の抱負 —
各会派の構成

3 面・2 面

区政のこころをきく
一般質問要旨
竹内 捷美議員(自民党)
横山 幸次議員(共産党)
武藤 文平議員(公明党)
斉藤 裕子議員(元気クラブ)
明戸真弓美議員(自民党)
採択した請願・陳情
意見書提出
北朝鮮による韓国・延坪島への砲撃に厳重抗議する決議
議会改革についての答申

掲載記事の
ご案内



11月29日 本会議
11月30日 本会議
12月1日 総務企画委員会
文教・子育て支援委員会
12月3日 福祉・区民生活委員会
12月8日 建設環境委員会
12月9日 議会運営委員会
本会議

第4回定例会日程

区政の未来をまわく

一般質問要旨

保育園待機児童解消に向けた保育施設の増設を、防災、地域力向上にFM放送局の設置を



竹内 捷美 (自民党)

保育園待機児童解消に向けた保育施設の増設を

南千住地域におけるファミリー世帯の増加や日暮里地域における認可保育所の不足から、待機児童が発生している。区は、保育需要の増大に対応するため、認可保育所や認証保育所の整備を着実に進めているが、今後も、保育所の利用を希望する人の増加が予想され、計画的な保育施設の整備が必要である。区において、待機児童ゼロを実現することが、最大の子育て支援策と考えるが、南千住7丁目の旧南千住幼稚園跡地を活用した認可保育所の整備により、保育需要は満たされるのか、今後の展望について問う。

区では、南千住駅前前私立認可保育園の整備支援や旧南千住5丁目ひろば館への認証保育所誘致、さらに旧南千住幼稚園跡地については、認可保育園として平成24年4月開設を目指して準備を進めており、計画的に保育供給量の大幅な拡大を図ることで南千住地域の待機児童解消を実現していく。また、平成25年4月の(仮称)第三東日暮里保育園開設により、

でも構築が可能と考える。現在の屋外に設置された防災無線は、場所の状況によっては聞き取りにくく、緊急時に、具体的な避難指示や区内の状況などの情報を区民に伝えることができない恐れもある。地域防災の観点から、屋内でも緊急情報を聞くことができるコミュニティFMを積極的に活用すべきと考えるがどうか。また、コミュニティFMを「荒川コミュニティカレッジ」の卒業生の活躍の場とするなど、地域コミュニティの拠点として活用してはどうか。

日暮里地域の待機児童の解消を図るとともに、他の地域においても保育需要を的確に把握し、必要に応じて保育施設を整備していく。防災、地域力向上にFM放送局の設置を

コミュニティFMは緊急情報や区民相互の情報交換に優れた情報伝達のツールであり、区の防災無線に係る経費を工夫すれば、区

算定、ボランティアや他自治体等との連携協力など、検討すべき課題がある。区としては、区の災害情報伝達システム全体の再編整備の中で、コミュニティFMの活用も鋭意検討していく。また、地域力強化は重要であり、意欲ある区民への活躍の場の提供は、区として積極的に取り組むべき課題である。指摘の点も踏まえながら、様々な観点から検討していく。

その他の質問項目

肺炎球菌ワクチンの接種費助成を

生活保護受給者の生きがいと居場所づくりについて

細街路の解消方法と道路整備について

子どもの貧困を許さず、どの子どもにも豊かな育ちと学びの保障を、福祉のまちづくりを



横山 幸次 (共産党)

子どもの貧困を許さず、どの子どもにも豊かな育ちと学びの保障を

区全体の幼稚園、保育園の増設が必要になっていると考えるが、区の認識を問う。

幼稚園は、既存の施設による定員枠の弾力的運用の中で対応

を明らかにすべき。

定員の弾力的運用にあたっては、教員の加配など、体制についても万全を期していく。今後も、区内幼稚園需要の動向を見据えつつ、適切に対応していく。

18歳未満は、児童福祉法の対象であり、18歳まで子ども医療費無料化を拡大すべき。

医療費無料化の拡大は、財政負担の増大や、就労し、扶養されていない人も対象者に含まれることから、実施は困難と考える。

コミュニティバス導入やバリアフリーなどを中心とした福祉のまちづくりについて

交通不便地域の交通手段とともに、買い物や通院など福祉バス

高齢者福祉施策、隅田川文化の再生と観光振興策について



武藤 文平 (公明党)

高齢者福祉施策について

現在、国の社会保障審議会では、次期介護保険制度改革に向け、様々な議論が行われているが、介護保険料の区への影響など心配な点もある。制度改正に向けた区の対応と、介護保険料軽減に向けた具体的な対策について問う。

今後、区では、国から提示された内容を踏まえ、制度改正による介護保険料やサービス利用などへの影響を精査し、必要があれば国や都に意見を申し述べていく。さらに、よりきめ細やかに調査し、地域の実情に応じた第五期介護保険事業計画の策定に努めていく。

区では、生活支援付き住宅や

の視点も入れ、将来を見据えた計画として、コミュニティバスを区内全域で導入すべき。

区は、福祉的視点や事業の採算性等、地元根ざした地域交通としてのコミュニティバスのあり方の調査を進めており、新規導入に向け、さらに検討していく。

町屋地域の隅田川沿いを、バリアフリーの重点地区とし、コミュニティバス、道路の段差解消、歩道整備など福祉のまちづくりとして面的に整備すべき。

区は、荒川区バリアフリー基本構想の中で、重点的、先導的にバリアフリー化に取り組む地区として、4つの重点整備地区を設定し

都市型軽費老人ホーム等、新たな施設の整備が進んでいるが、さらに都用地や区有地の活用など、計画的な整備が必要である。高齢者が多様なニーズに応じて「住まい」を選択でき、安心して暮らすことができるよう、(仮称)「高齢者施設・整備計画」を策定すべきと考えるがどうか。

区は、財政負担や介護保険料への影響額等を踏まえながら、都用地や区有地の活用等も視野に入れて、施設整備を進めたいと考えている。今後、高齢者の「ケア付きすまい」整備も含め、第五期荒川区高齢者プランの中で、高齢者施設の整備計画を検討していく。

他の地区も道路の改修整備や施設整備計画の機会を捉え、バリアフリー化を推進していく。その他の質問項目

「地域主権改革」に対する認識

失業などからくらしを守るために

区内産業振興とワーキングプアを生まないための区の契約のあり方について

高齢者が人間らしい人生を送るために

国民健康保険について

区営自転車駐車場の一時利用や定期利用料金を値下げすべき

その他の質問項目

行財政改革について

隅田川文化の再生と観光振興策について

かつてのように、安心して隅田川の水に触れられる環境を取り戻すためには、関係自治体による、水質浄化に向けたさらなる努力が必要と考えるが、水質浄化の現状と今後の区の具体策を問う。

隅田川の現状の水質は、生物化学的酸素要求量において、環境基準を達成している。一層の水質浄化を目指し、流域関係区が協力し、関係機関に対する要請活動等とともに、清掃活動の実施など啓発活動等に取り組んでいく。

政府の行政刷新会議による事業仕分けで、スーパー堤防事業が廃止と判定され、隅田川のスーパー堤防整備への影響が懸念される。補助金が廃止されないよう、積極的に国に働きかけるべきでは。

都では、都型のスーパー堤防事業を、引き続き進めたいとの考えを示しており、区は、国の動向を踏まえながら、事業が円滑に実施できるよう、都と連携し、必要に応じて、国に要望していく。

隅田川文化の再生と観光振興策として、沿川の公園と東京スカイツリーを結ぶ水上バス導入や、公園と堤防を整備する際に桜を植栽し、「川の手ウォーターストリート」とするのはどうか。

宮前公園や荒川自然公園の拡張の際に多くの桜を加えることで、憩いの空間を創出することや、東京スカイツリーの完成を契機とした様々な政策を展開することを検討し、今後も、隅田川が、荒川の街のウォーターストリートとなるよう取り組んでいく。

その他の質問項目

行財政改革について

防災まちづくりについて

4年間で約90億円の土地購入。区民への還元はどのような？ 雇用の7割を担う区内中小企業に本気の支援策を。



齊藤 裕子
(元気クラブ)

土地購入と施設建設は誰を潤すのか？ 経緯と利用計画を聞く。

「荒川版ニューデール」と言う土地の取得や施設建設だが、「誰から買ったのか」「適正価格なのか」「どういう経緯の土地なのか」に区民の関心が向けられるのは当然だ。用途や計画が区民に充分説明されてしかるべきだが、どのように区民に説明するのか。

区は、公共施設整備は区内企業に売上として寄与し、景気刺激策

として効果があったと認識しており、区民へのわかりやすいPR等で、十分な理解と協力を得て、今後も区政運営にあたっていく。

地域活性化の拠点と期待される日暮里区民事務所隣地と峡田小学校の隣地について、取得に至った経緯と今後の利用計画を問う。

日暮里区民事務所隣地は、当該用地にふさわしい機能が導入できるよう、検討を進める。峡田小学校隣地は、破産管財人から処分

を依頼された事業者から区に意向の打診があり、不足する学校敷地面積確保のため12月に取得予定。今後、関係者に説明していく。

ものづくりと商店街が残る荒川区のために有効な支援策、規制策を。『金融円滑化法』の延長など、年度末に向けた緊急対策を国に求めてほしい。

中小企業政策審議会などで法律の延長を強く主張していく。

山形大学工学部による『ものづくり産業支援』は有効だ。多種多様な区内の中小企業がもつ支援を実感できるようにすべきだ。

経営改善、世代交代などで成果を出した企業を区内に拡大して好循環を形成し、活性化を図る。

現状に合わない法律を変え、大型店の出店を規制する区独自の条例を制定する考えはないか。

法体系を逸脱するのは不適切。大店立地法の見直しを国に要

提唱された、環境問題や高齢化などの課題を解決し、新たな需要や経済活動を創造することで、我が国を再生し、エコで健康で快適なまちづくりを進める「プラチナ構

想ネットワーク」に区は参加し、この場においても研究を重ね、提案の趣旨も生かしながら、高齢者の見守り事業も含め、区民の幸福をめざし、積極的に推進していく。

協力社会―区民との協働で「アートイベント」開催について

荒川区の基本理念の一つである「区民の主体的なまちづくりへの参画」を推進していくために、区は、区民の主体的発意による「公共性に資する」部分の支援に取り組みしていくべきと考える。近年、区では様々な芸術活動が盛んになり、多彩な事業が行われているが、この機運に乗じて、越後地区や瀬戸内海地区で行われている芸術祭のように、区関連の芸術家

区民の幸福について ―自立と協力の指標



明戸 真弓美
(自民党)

見守りあい支えあい事業の充実―1つの小さな具体的なお願いで地域力アップ

朝ドアをノックしてあげる、ゴミ出しの日を覚えてあげるといった、「1つの小さな具体的なお願い」による地域の方の見守りで、一人暮らしの高齢者や病後の方々は、自立した生活を送ることができると考える。区において、地域力をアップさせ、民生委員を

中心として、高齢者の見守りに多

くの人を少しずつ関わらせる仕組みをつくり、「支えあい見守りあい事業」を充実させてはどうか。

区は、様々な方が見守る「支えあい見守りあいネットワーク事業」の取り組みに加え、高齢者を地域全体で見守っていく仕組みを一層充実させる必要があると考える。関連事業を再編し、各関係機関の役割をより明確にし、有機的かつ有効に機能させる仕組みを構築しているところである。先ごろ

採択した請願・陳情

趣旨採択

・荒川区として平成22年2月25日付けの受動喫煙防止の厚生労働省局長通達の趣旨を速やかに実行してゆくことを求める請願



意見書提出

本定例会では6件を可決し、関係機関に提出しました。

子ども手当財源の地方負担に反対する意見書

(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・内閣官房長官・国家戦略担当大臣あて)

ロシア大統領の国後島訪問に対し、毅然とした外交姿勢を求める意見書

(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・外務大臣・内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)・内閣官房長官・国家戦略担当大臣あて)

切れ目ない中小企業支援及び金融支援策を求める意見書

(内閣総理大臣・財務大臣・経済産業大臣あて)

脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立を求める意見書

(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・文部科学大臣・厚生労働大臣・国土交通大臣あて)

生活道路の信号機設置予算の拡大を求める意見書

(東京都知事あて)

北朝鮮による韓国・延坪島への砲撃に 嚴重抗議する決議

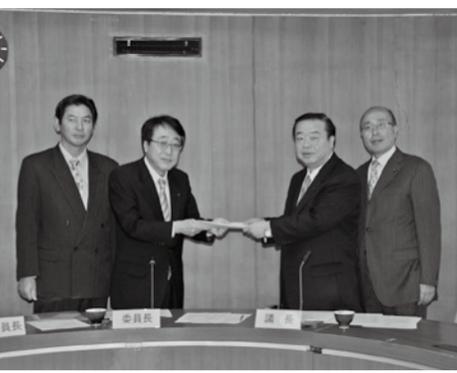
北朝鮮は11月23日、韓国の延坪島に対して砲撃を行い、韓国軍との間で交戦状態となった。これにより、韓国軍兵士2人が死亡し、さらに同島の民間人にも死傷者が出て、住民1,600人が緊急避難する事態となった。

民間人が居住する島への無差別な砲撃は、朝鮮戦争の休戦協定はもとより、国連憲章にも、北朝鮮自身が当事者である南北間の諸合意にも反する無法な行為である。

よって、荒川区議会は、今般の北朝鮮の砲撃について嚴重に抗議するとともに、北朝鮮が核兵器の開発を含め、あらゆる軍事的な挑発行為を放棄することを強く求める。

以上、決議する。
平成22年12月9日
荒川区議会

さらなる議会改革の方策について、第五次答申が提出されました



議長から議会運営委員会に対して諮問が行われた「さらなる議会改革の方策について」の第五次答申が、12月8日に議長に提出されました。

第五次答申(要旨)
○予算に関する特別委員会、決算に関する特別委員会の「締めくくり総括質疑」の質疑等の持ち時間の計測方法を変更する。

○外郭団体調査の質疑等の持ち時間の計測方法を変更する。

○本会議の傍聴者に対する「傍聴者へお願い」の配付、傍聴券裏面「傍聴人を守っていただく事項」への追加記載を行う。
(写真右から戸田光昭副議長、守屋誠議長、北城貞治議会運営委員長、保坂正仁同委員長)

詳細については現在作成中の会議録がほしい、区立図書館及び区役所2階の情報提供コーナーにおいて閲覧できます。また、荒川区議会ホームページで平成13年5月以降の本会議録を検索することができます。あわせてご利用ください。



平成23年荒川区議会第1回定例会は2月中旬に開会する予定です



新春を迎えて



各会派新年の抱負

自民党

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

急激な円高や世界経済の先行きへの不安が拡大するなか、国の経済対策も打ち止めの感があり、景気回復も足踏み状態にあります。また昨年末には、尖閣諸島沖で中国漁船の衝突事件やロシア大統領による韓国・延坪島への砲撃事件などが惹起し、まさに内憂外患の状態に至っています。

このような時こそ、私たち自民党区議団は区議会第一党としての責任を自覚し、常に区民の目線に立ち、地に足の着いた区政を真摯に推進してまいります。

【健康と福祉】

新型インフルエンザの検証とさらなる対策の充実。子宮頸がんワクチンや高齢者の肺炎球菌予防ワクチン接種の助成。脳ドック検

診の補助。介護予防の充実。特別養護老人ホーム待機者の解消。ショートステイの大幅な拡充。障害者の就労支援の充実。

【教育改革・子育て支援】

小中学校の教育環境のさらなる充実。学校パワーアップ事業の充実。国語力向上のための具体的な取り組み。学校図書館の充実。放課後子どもプランの全校実施。子育て環境の整備。保育園待機児解消に向けた保育施設の整備。旧南千住幼稚園跡地に保育施設の整備を。公立幼稚園の3歳児の定員枠拡大。

【区内商工業の活性化支援】

区内の物づくり産業の活性化支援。商店街ルネッサンス推進事業やイベント推進事業により商店街の活性化に向けた取り組み推進。都電荒川線開通百年のイベント実施。日暮里駅前広場を活用した商業振興や文化交流で観光振興や区の活性化を図る。

【防災・環境・まちづくり】

(仮称)宮前公園の早期整備。「花と緑の基本計画」に基づいた

公明党

新年を寿ぎ、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年10月に行われました公明党全国大会で、山口那津男代表が再任され、「闘う野党」として新出発いたしました。

公明党は地域に根差した3000人を超える地方議員と国会議員のネットワークを持ち、多様化した民意を集約できる政治を示すとともに、従来の年金・医療・介護の充実に加え、不安定な雇用、うつ、など心の病、DVや児童虐待、高齢者の孤独死など、「新

たな福祉社会」の実現を目指してまいります。

私達公明党区議団は、常に生活者の声を真剣に受け止め、次の重点政策を推進してまいります。

①行財政改革(事業仕分け)等のさらなる推進

②介護施設(特養等)及び介護従事者への支援強化

③高齢者の住環境の充実(家賃補助等)

④全小学校に放課後子どもプランの拡大

⑤教育複合施設(児童育成・図書館)の建設

⑥うつ病(DV・児童虐待)対策

⑦がん検診・予防対策の強化

⑧高齢者・小児肺炎球菌予防ワクチンの助成策

共産党

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、2回の「区民アンケート」をはじめ、区民のみなさんから寄せられた切実な声で区政を動かす。急増する保育需要に対応して保育園の増設や2つの特別養護老人ホームの建設計画促進、子宮頸がんワクチン接種への助成など実現させることができました。また、自然公園の契約違反の再委託など不正を追及、官製ワーキングプアを生まないため区の責任で賃金を提案、改善を約束させるなどできました。

政権は交代しましたが、菅内閣は、後期高齢者医療制度を廃止でなく新たな差別制度へ変更、労働者派遣法改正の先送りなど国民の期待を裏切っています。失業

若者の就職難など深刻さを増す雇用情勢、一方244兆円もため込んでいる大企業には法人税減税、内需拡大や国民のくらし応援が見えません。いまくらしを守る防波堤として荒川区の役割発揮がいつそう求められています。

民主・市民

少子高齢社会のいま、それぞれの「居場所づくり」が必要です。区民に最も身近な議員として、「区民が納得・満足の実感出来る区政」「情報公開と市民参画」「温かい地域づくり」へと、清水ひろし、せの喜代は取り組みます。

「正直者が馬鹿を見ない社会を」「日本の国柄、誇り、歴史を守る」「生き抜く力を損ねない政治を」大局観を持ち地道に取り組みます

「居場所づくり」が必要です。

「情報公開と市民参画」「温かい地域づくり」へと、清水ひろし、せの喜代は取り組みます。

元気クラブ

中小零細企業の元気回復なくして若者や働く人の雇用の安定なし。大政や国会議員にまかせておけません。地域から景気回復の声を。

各会派の構成

自由民主党 荒川区議会議員団 14人

幹事長 北城 貞治
副幹事長 若林 清子
副幹事長 齊藤 泰紀

公明党 荒川区議会議員団 6人

幹事長 保坂 正仁
副幹事長 萩野 詠子

日本共産党 荒川区議会議員団 6人

幹事長 小林 行男
副幹事長 安部キヨ子

民主・市民の会 2人

幹事長 清水 啓史
副幹事長 瀬野 喜代

あらかわ元気クラブ 1人

幹事長 齊藤 裕子

日本創新党 1人

幹事長 小坂 英二
副幹事長 浅川 喜文

あらかわ正論の会 1人